

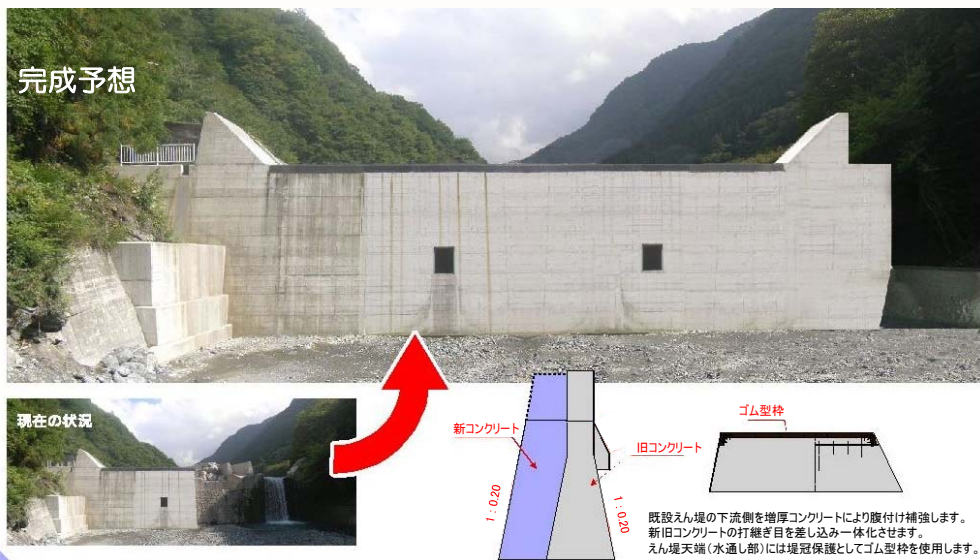
くろゆり通信



第119号 平成26年3月発行
 発行者 国土交通省中部地方整備局
 天竜川上流河川事務所
 小渋川砂防出張所
 小渋川支部安全協議会

今回のくろゆり通信では、大鹿村内で実施中の工事などについて紹介致します。

釜沢地区において老朽化した釜沢第2砂防堰堤を補修する工事を実施しています



老朽化したえん堤を補強し、より強度を持たせ安定したえん堤にする工事です。

工事名：平成25年度 天竜川水系
 釜沢第2砂防堰堤補強工事
 工期：平成25年9月14日
 ～平成26年7月11日



現場代理人
浅間慎也



監理技術者
森下行宏

勝間田建設株式会社
 Tel.0265-22-3480

現場代表者に（下）聞いてみた

現在、小渋川砂防出張所管内にて施工中の工事について、現場の代表者へ工事目的や特徴、苦労した点などについて質問してみました。今回は5件の紹介をします。



工事名/会社名/現場代表者	なにをする工事ですか？	現場での苦労や課題は？	地域の皆様へ一言！
平成25年度 天竜川水系 沢戸5号床固補強工事 神稲建設株式会社 仲田 俊司	昭和52年に施工された沢戸5号及び上蔵堰堤の経年による損傷した床固工の補修を行っています。型枠パネルの素材に廃タイヤのリサイクル材を用い、耐摩耗性・耐衝撃性を有する型枠として構造物の耐久性を向上させています。	河川幅の狭い箇所での施工である為、瀬廻しに限界がある事や、既存の構造物を痛めない様、細心の注意を払って施工しています。寒さが一段と厳しくなるうえ、河川内での工事ですので、作業員の体調管理に留意しつつ、良いものを作りたい。	日頃より工事へのご理解とご協力いただきましてありがとうございます。大鹿村の美しい景観を損なわないよう努力しますので宜しくお願い致します。
平成25年度 天竜川水系 大河原床固工補強工事 YOSHINO 株式会社吉野組 丸山 隆	床固工の床端補強や常水路(魚道)の設置を行う工事です。特徴としては、今までの常水路は山水画の様な景観重視の形をしていましたが、今回施工の常水路では石の配置を工夫することで、景観に配慮しつつも魚の遡上によりスムーズになる様にしています。	常に住民の方々に見られているような現場です、さらに地元業者と言う事も安全管理、施工方法等細心の注意を払い工事を進める事に心掛けています。何においても無事故、無苦情で現場を終了させる事です。	日本で最も美しい村に登録されている大鹿村の村内業者としてその名に恥じないように努力して行く所存です、どんな事でもお気付きの点があれば何でもご連絡ください。
平成25年度 天竜川水系 桐村沢砂防堰堤補強工事 神稲建設株式会社 宮内 孝二	桐村沢砂防堰堤をコンクリートで厚くし、現在の堰堤を補強する工事です。	降雨により河川が増水したことで、現在の締切盛土設置完了までに何度も再施工し苦労しています。今後は、冬期に入り、雪や凍結・寒さなど、気象に左右されることが想定されますが、臨機応変に現場管理を行いたいと思います。	安全第一で工事が完成することを目指します。お気づきの点がございましたら、お気軽にお声を掛けて下さい。皆様のご協力をお願い致します。
平成25年度 天竜川水系 釜沢第2砂防堰堤補強工事 勝間田建設株式会社 森下 行宏	本工事は、完成から70年以上が経過し老朽化が進む釜沢第2砂防堰堤において、堰堤前側をコンクリートで補強することにより、損傷箇所の補修を行うとともに堰堤全体の安定性を向上させるものです。	小渋川は普段は人が歩けるほどの静かな川であるが、雨が降ると河川が増水し川の様子も一変します。土石流災害をはじめ、様々な労働災害ゼロを目指します。	長期間の工事になりそうですが、無事故・無災害で工事完成を目指して頑張りますので、地域の皆様には引き続きご理解・ご協力のほど、よろしく申し上げます。
平成25年度 天竜川水系 沢戸床固補強工事 勝間田建設株式会社 岡井 源光	損傷した床固工、垂直壁、水叩きを直す工事です。流下する土砂等の衝突により、床固めと垂直壁の傷んだ水通し部分にラバーシール(ゴムと鋼板)の複合による弾性構造のコンクリート保護材)を使用し、表面の摩擦や損傷から守ります。	これから施工条件が悪くなっていきます。作業員も高齢な方が、寒い中工期内に間に合うよう協力していただいています。無事故で現場が完成出来るように頑張ります。	工事期間中、地域の方々には大変にご迷惑をお掛けしています。安全には十分に心掛け無事故で工事を進めます。お気づきの点がありましたら、お気軽にお声を掛けて下さい。

紹介コーナー(第6回)

伊那谷遺産プロジェクト 地蔵峠

大鹿村内を縦断する国道152号の南端に位置する標高1314mの峠。古くは「遠山峠」とも呼ばれ、秋葉街道における難所の1つとされていた。青木川(大鹿村)と上村川(飯田市)の分水嶺でもある。名前の由来となる地蔵は、元々は峠の南にあった「堂屋敷」地籍に安置されていたものであり、大正時代の頃に4基あった内の2基が今の場所へ移されたという。



伊那谷遺産プロジェクト
 所在地などの詳しい情報は、お手持ちの携帯でコチラのバーコードを読み込むと御覧になれます。
 伊那谷遺産プロジェクト公式サイト
<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjo/think/heritage/>